

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400291	事業の開始年月日	平成25年11月1日
		指定年月日	平成25年11月1日
法人名	ヒューマンライフケア (株)		
事業所名	ヒューマンライフケア 多摩の宿		
所在地	( 214-0004 ) 神奈川県川崎市多摩区菅馬場1-25-30		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	29名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	18名
		宿泊定員	9名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく」をモットーにひとりひとりの持っている能力を最大限生かして頂ける様な接し方・取り組みをしています。  
また、自立支援を行うために、利用者様のできる事に注目し、ご自宅での生活がそのまま事業所でも再現できるよう支援しています。  
利用者様・スタッフが家族のように一緒に生活していく事を目標としています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年3月14日	評価機関 評価決定日	平成28年5月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR南武線の中野島駅より徒歩12分の閑静な住宅地の一角にあります。建物は3階建てでグループホームと併設されており、2・3階がグループホームで1階が小規模多機能型居宅介護の「ヒューマンライフケア多摩の宿」です。  
 <優れている点>  
 月2回(15日、25日)、利用者が自主的に昼食を決めています。その前日に利用者主体でメニュー会議を開き、献立を決め、それに基づき買い物材料を決めています。今回訪問調査日の翌日が、その自主的食事会の為、黒板には、15日のメニューとその購入材料が利用者によって書き出されていました。食事会の前日午後利用者と一緒に食材の買い出しをしています。普段はテーブル拭き・盛り付け・湯茶出し・下膳・皿洗い・食器拭き・食器棚に収めるなど行っていますが、自主食事会当日昼は、調理も主体的に行っています。湯茶は一人の利用者が全員分入れて各自が運び、配膳も利用者が自分で運んでいます。味噌汁だけは、テーブルごとの数人分をまとめて男性利用者が運んでいます。食事後の食器はそのテーブルの男性が全部まとめて下膳しています。事業所は「利用者のできることに注目し、自宅での生活がそのまま事業所でも再現できるよう支援していきます。」を実践しています。  
 <工夫点>  
 事業所の呼びかけで昨年秋から週2回、移動スーパーが事業所玄関に来ています。利用者と近隣住民が買い物しながら交流をしています。自宅での生活ができるように”買い物と近隣の人との会話”を実践しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア 多摩の宿
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所開設時に全職員にて理念作りを行った。理念は事業所事務所入り口に掲示し、職員・来所者共に共有している。ケア内容に不安を感じた場合は、理念に立ち返り検討している。	開設時に全職員で理念を作っています。法人の理念を含め「笑顔」を心掛けています。理念は毎日確認できるように事務所入り口に掲示しています。日常のケアで不安を感じた場合は、理念に戻っています。月1回のミーティングでも必要により振り返っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議・自治会への加入等実施。事業所のお祭りの際、介護相談会のご案内を近隣へポスティングした。まだまだ交流が少ないためアピール活動を行っていききたい。	事業所主催の「夏祭り」ではミニ縁日などもあり、近所の子供たちも大勢来ています。また「カフェ&介護相談会」では近隣の人が相談に来ています。昨年秋から週2回移動スーパーが事業所玄関に来ています。利用者と近隣住民が買い物と交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後の課題である。行事に関連させ介護相談会のお知らせをしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1度実施している。出された意見を率直に受け止め、改善を図っている。	2ヶ月に1回、併設のグループホームと一緒に運営推進会議を行っています。会議で、職員の名前が分からないことから、当日出勤の職員の名前を掲示するようにしています。今後は事業所単独での会議を計画しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括のケア会議等参加している。	生活保護の人も居り、区保護課と密接に連携しています。そのほか、区高齢・障害課と協力関係を築いています。多摩区・宮前区の小規模多機能の事業所連絡会主催で2月に多摩区総合庁舎で作品展を行い、利用者が作った折り紙工作など多数出展しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束実績無し	「虐待防止」「身体拘束をしないケア」について、毎年研修を行っています。外は交通量のある自動車道路であり、玄関の施錠を行っています。利用者が外に行きたい時には、職員と一緒に出るか、了解してもらって戻るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	訪問時や送迎時等家庭内の環境等観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者によっては必要制度であり、あんしんセンターや後見人制度のご案内を家族に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間を掛け内容を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて意見聴取している。推進会議には全利用者様家族にご案内を配布している。	月2回の自主昼食は利用者が主体でメニューを決め、材料も決めています。酒を飲む利用者もいます。利用者家族は迎え・送り時及び連絡帳で職員と連絡しています。またメールでも連絡も行っています。月1回、利用者の様子を各家族に送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	頂いた意見は率直に受け止め、今後の運営改善に反映するよう努力している。出された意見は職員会議等で検討する。	毎月職員のミーティングを行っていません。また年1回職員と個別面談を行っています。職員の意見を生かすように努めています。昨年より法人でスキルアップのためのマイスター制度が行われ、職員も受けています。職員の定着性も良い状態が続いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内でマイスター制度を導入し、個々のスキルアップ・また資格取得に伴う賃金改善等実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの力量を判断し必要な研修への参加打診やOJTを行っている、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会に参加している。作品展等への参加も実施。今後横のつながりを保つためにも積極的に参加していく。また、法人内他事業所の研修受け入れを実施している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回は管理者・CMと共にご自宅訪問を実施し、状況観察と共に、ニーズを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回は管理者・CMと共にご自宅訪問を実施し、状況観察と共に、ニーズを把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回は管理者・CMと共にご自宅訪問を実施し、状況観察と共に、ニーズを把握している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	同じ目線で考えケアを実施している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを受け止める努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院や病院等必要であれば送迎を行っている。	月1回、事業所の帰りに馴染みの理髪店で散髪し、家まで送る利用者や、送迎でかかりつけ医に寄ってから事業所に来る利用者もいます。また、帰りには高齢者も良く行くカラオケ店まで送ったり、昼間、近所の友達が遊び来て、利用者と話が弾んでいるなど、これまでの生活が継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者ひとりひとりの時間や空間を大切にしながら、集団での活動にもお声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご相談を受けるケースあり。随時相談に応じアドバイスを行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやご本人・ご家族との会話等で情報収集を行う	ほとんどの利用者は自分の意見が言えます。日常の話の中から利用者の思いなどをつかみ、毎月のカンファレンスやモニタリング時にその内容をつなげ、職員間で情報を共有します。思いや意向が把握できにくい利用者は、家族から思いや意向をつかむようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやご本人・ご家族との会話等で情報収集を行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやご本人・ご家族との会話等で情報収集を行う		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1度検討会を実施し、プラン内容が合っているか話し合いを行う	毎月、各利用者のケースカンファレンスとモニタリングを行っており、必要によりライフサポートプランを見直しています。見直す際に、送迎時に会う家族とは直接説明して、理解を得ています。その他の家族とは電話、メールで理解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づいたことは介護記録へ記入。介護記録は業務に入る前に確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の利用者の様子でサービス愛用を随時変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご近所の方の力を借りることもあり。送迎時や訪問時ご近所の方にお会いした場合ご挨拶や情報収集をするようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の必要性を判断した場合、ご家族とご相談の上、速やかに受診できるよう手配している。	通いの利用者は元のかかりつけ医に通院しています。連泊の利用者については家族の了承を取り、協力医に変更して訪問診療を受けています。歯科についても同様の対応をしています。医療情報の提供は看護師や職員で共有し、家族にも連絡できる体制です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の中での変化は看護師に報告し、状況に応じ、受診送迎・動向の実施をしている。また、医療管理が必要な場合は、訪問看護の導入を行い、訪問看護師との連携を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成したり、退院時のカンファレンスへ参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所でできる事、ご家族・ご本人のニーズをすりあわせし、ご本人の想いに沿うよう対応している。状況に応じては別事業への連携を行う。	今まで重度化や緊急時対応となる事例はまだありません。現在利用している人とその家族からは事業所での看取りの要望があることから、今後重度化や終末期医療について積極的に対応していく意向です。重度化や終末期の研修についても積極的に対応していく意向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員を随時救命救急研修へ参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施はしているが、不安点はある。地域の方との協力体制も未実施であり、今後の課題である。	防災や避難訓練は年に2回、2月と8月に防災器具のメンテナンスを含め行っています。非常食や水、使い捨てのトイレなど3日分を常備しており、賞味期限も表にしています。業務終了時に自主点検チェック表を作成しています。	災害対策は地域との相互協力も重要です。地域との交流を深めるとともに町内会の防災訓練に参加したり、事業所の防災訓練に地域の人参加が得られるような取り組みも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方を大事に接している。	職員は入職時に、法人で用意しているスタッフブックや、基礎研修テストなどで接遇対応など介護の基本を習得しています。権利擁護、利用者への声掛け、対応についても研修を受けています。個人情報、鍵のかかるロッカーで保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人のニーズは何か、また、声なき声に気づくよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おひとりお一人の時間や空間を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の取り入れや、その方の馴染みの美容院への送迎、今まで同様にご近所の方が散髪に見えたりと、その方が今までの生活で行ってきた身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方ができる事に参加をして頂く機会を設けている。	利用者同士で食事の用意からあと片付けまで、仕事の分担を決めています。月に2回利用者が食べたい物のメニュー会議が開かれ、食べるものを決め、何をかうかを話し合っています。地域は果物の産地で、近隣の人が梨やびわなどを持って来てくれています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方のペースや食習慣を大事にしている、できる限り対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後実施し、状況に応じては訪問歯科等のご紹介を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おひとりお一人に合った声掛けや誘導を行っている。	病院から退院した後、排泄の自立ができなくなっていた利用者も、職員が排泄チェック表を使い、促しを強化することによって、排泄パターンを取り戻しています。その結果、不要なパットを外して家族の介護軽減につながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェック表の確認と共に、その方の様子により、個別の食品を取り入れ提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人のご希望する時間に入浴できるよう努力している。	入浴は週2回～3回ですが、朝や夜など、時間は利用者に合わせるようにしています。また、入浴当日、バイタルチェックで体調不良の場合は、翌日に入浴だけで来所してもらった事例もあります。利用者の使い慣れている石鹸やシャンプーを持ってくる人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の生活スタイルを重視し、事業所での決まった消灯・起床時間は設定していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理の実施を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方のお好きなことや能力が発揮できる場を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その方の能力を判断しご家族了承のもと、おひとりでの外出も許可している。買い物等ご希望時に実施できるよう努力している。	事業所の近くには多摩川を水源とした二ヶ領用水があり、桜並木のある場所の散歩を楽しんでいます。また、家族と話し合いながら、利用者が一人で自宅に帰るプログラムを作り、何度か帰宅を繰り返して在宅復帰が出来たこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族様との相談の上、個人個人に合わせた金銭管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の使用可能。状況に応じ、事業所の電話での取り次ぎ等実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の壁絵等工夫し季節感があるフロアづくりを行っている。また、泊まり利用時の居室はその方の過ごしやすい配置にしている。	折り紙で金魚をたくさん作り、それをまとめて一つの大きな招き猫を作ったり、貼り絵で作った花を変えて季節感を表現しています。適切な温湿度管理をしているリビングで、自宅と同じように利用者同士いつでもリラックスして湯茶を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々のそれぞれの時間を大事にしており、居室や玄関のベンチ等利用したり、フロアの座席を固定せず、好きな場所に座って頂くようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	泊まり時は使い慣れた家具や電化製品等の持込をして頂き、自宅内と同じように生活して頂いている。	泊りの居室にはフローリングと畳の部屋があります。畳の部屋でベッドを使用する場合がありますが、希望により直接畳に布団を敷くこともできます。肌かけや枕など、自分の好みのものを持ってくるのが可能です。長期利用者はテレビを持ってくることもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できる事は全て行って頂いている。また、自宅でできる事は事業所でも同じように行って頂き、事業所でできる事は自宅でもできるように環境を整えたりご家族の協力を頂き、自立支援を行っている。		

平成27年度

## 目標達成計画

事業所名 ヒューマンライフケア 多摩の宿

作成日： 平成 28年 9 月 20 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練や災害時の地域との協力を想定した訓練が未実施であり、災害時の対策が不足している	いつ災害が起こっても、全職員が落ちついて避難誘導が出来る	夜間の災害発生を想定して非難訓練の実施や、地域の防災活動への参加をする事で、何かの時にはお互いが助け合える関係作りを構築する。また、運営推進会議においても議題に取り上げていく。	12ヶ月
2	4	運営推進会議のあり方について検討していく必要がある。現在は、家族会のようなイメージになってしまっている。	運営推進会議の本来のあり方や趣旨を理解した中で、適正な推進会議が開催できる。	運営推進会議のあり方や趣旨を事業所側でしっかりと理解し、参加メンバーへお伝えする。推進会議での意見を評価し対応実施する事で地域の中での役割を再確認する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月